



— 問い合わせ —

- 遊休農地に関すること
農業委員会事務局
(農地管理係)
☎ 0220(34) 2317
- 中山間地域等直接支払
交付金に関すること
産業経済部農林振興課
(農村環境係)
☎ 0220(34) 2709



沢田管理組合 会長
阿部 彰さん

この棚田とか里山のことを「美しい自然の風景」と言う人がいますが、先人たちが切り開いて残してくれた守るべき財産なんです。一度は荒地となりましたが、県の農業改良普及センターから指導をもらいながら、みんなで協力して復活させることができました。農地を活用して収入につなげることも大切ですが、仲間たちと同じ目標に向かって楽しく過ごす時間そのものが宝物だと思います。この活動を通じ、農地を

「誰かの遊休農地」ではなく「地域みんなの財産」と捉えて活用することが、持続可能な農業と里山の風景を未来へつないでいく第一歩になると感じました。未来をどう生きるかは自分次第。農地を活用し、地域を元気にするためには、小さな幸せや喜びを共感でき、いつも笑顔でいられるようになる方法を地域のみんなで考えること。そして、まずは自分たちに「やる気」を植えることが大切なんだと思います。

仲間と同じ目標を持って
まずは「やる気」を植えるんだ

誰かの悩みの種が 希望を育む地域の財産に

豊かな自然環境と里山の風景を守り続けている沢田地区。
沢田管理組合の皆さんに活動への思いを聞きました。



片山 智子さん

喜んでもらえることが
継続のやりがい



阿部 辰也さん

にぎやかで楽しく
ときには仕事の相談も



宮城県登米農業
改良普及センター
木村 優太さん

農地の価値を生かして地域の活性化に

農地は、農作物の生産だけでなく、自然環境の保全など、さまざまな機能を持っています。また、農村文化の伝承や都市との交流の創出にもつながるほか、ライフスタイルの変化を求めて移住する例もあるので、地域

振興の面でも価値があります。

農業の担い手が減少し、遊休農地の増加が懸念されていますが、地域一丸となって農地を活用し、農村地域の活性化につながる取り組みが増えていくことを願っています。

この活動を通して、地区内の絆が強くなったと思います。作業するときに、行ける人たちで作業するというやり方なので、負担に感じることもありません。旅費の一部を収益から補助してもらって、みんなで旅行しているので、それも楽しみの一つですね。

トウモロコシは、厳しい暑さの日には作業することもあります。私たちが作ったトウモロコシを食べ「甘くておいしかった」と喜んでもらえるのがうれしいので、これからも続けていきたいです。

会長に誘われて、12年くらい前から参加しています。それまで農業は未経験だったので、自分にはできるか分かりませんでしたし、実際にやってみると斜面の草刈りとか大変なこともありましたが、にぎやかな人が多く、話しながら楽しく作業しています。

私はメンバーの中で一番若いですが、仕事の話とかも聞いてくれるので助かっています。何より、この棚田と風景を守りながら、大変なことやうれしいことを共感できる仲間ができたことが良かったです。